

擦り切れ・ボールマークの予防に

# バイオHGハードグラス

腰の強い芝草作りに

1リットル×10

パッティングクオリティを  
高める必需品

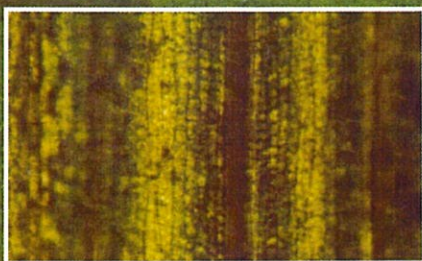
パッティングクオリティは、ボールの転がりの滑かさだけではない。スピンを利かせたボールの回転が自在になる事も大切な要素である。「硬葉」と「腰のある葉」は違います。

## 使用方法

必要とするタイミングに合わせて、散布面積1㎡あたり『本品0.5～1.0mlを100～300mlの水に溶いて』散布してください。一度に多く施用しないで、数回の分散使用をお勧め致します。

## 成分分析事例

細胞壁の蛋白質合成に関与する『助因子剤』	2.0%
クチクラ層の強化に関与する『助因子剤』	6.0%
カリ	2.4%
有効態カルシウム	2.3%
有効態珪酸	3.0%



対照区(使用前)



試験区(使用后)

## 使用 pH

100倍液	pH 3.24	400倍液	pH 3.58
200倍液	pH 3.33	500倍液	pH 3.64
300倍液	pH 3.44	600倍液	pH 3.70

アルカリ性の高い液剤と混合すると、カルシウムや珪酸が結晶化して水が混濁いたします。アルカリ性液剤との混用は避けて下さい。

## 解説

パッティングクオリティは、ボールの転がりの滑らかさだけではない。スピンを利かせたボールの回転が自在になる事も大切な要素である。

「硬葉」と「腰のある葉」は違います。

葉の表層（クチクラ層）を厚くするだけでは、硬葉になってしまう。

「腰のある葉」は、逆目では抵抗を高め、順目では走りを良くする。

「腰のある葉」は、細胞壁もしっかりしていなくてはならない。

ここが「硬葉」と「腰のある葉」の違いである。

クチクラ層の構成成分「クチン」は、不飽和度の高い「ヒドロキシC<sub>18</sub>脂肪酸」などの重合物質であり、蠟物質が重合している。ここに単なる溶解性の「珪酸」や「カルシウム」液肥などを附着させることはできても、重合させることは難しい。一方「細胞壁」は「セルロース、ヘミセルロース、ペクチン質」に少量の「グリコペプチド」を含んだ「マイクロフィブリル」や「マトリックス」と細胞壁蛋白質で構成されている。細胞壁蛋白質には、多くの「ヒドロキシプロリン」が含まれており、「ペルオキシターゼ」や「リンゴ酸デヒドロゲナーゼ」などが代謝に関与している。

「腰のある葉」を作り出すために、これらの植物生理を考慮して、独自の製法で、即効性の高い「改良液剤」として開発してあります。

1リットル×10

### お問合せ先・販売店

〒243-0807 神奈川県厚木市金田834-2  
株式会社 大谷金太郎商事  
TEL. 046-224-7363 FAX 046-223-007

バイオビジネス  
普及会